



グローバル人材の育成

主幹教諭 田原 慶人

実は、私は末吉小に来る前の三年間、コスタリカという国のサンホセ日本人学校にいました。日本人学校は、現地に住む日本人の子どもや、親の海外赴任に帯同した子どもたちが通う学校です。日本と同じ教育を受けることができ、世界各地に日本人学校はあり、日本全国の教員が文部科学省から派遣されて日本の教育を進めています。

サンホセ日本人学校でも、日本の教科書を使って学習をしたり国や地域の特色を取り入れたりしながら学習活動を進めていました。また、全校児童生徒（日本人学校は小中一貫です）が協力しながら行事に取り組み、近くのコーヒー農園を見学して現地の自然について学んだり、近隣にある現地の学校と交流して身振り手振りで会話やゲームをともに楽しんだりする活動も行っていました。異なる文化で育った児童生徒の交流は、言葉が少なくても互いに相手のことを思いやる様子がたくさん見られました。特に、現地のゲームの面白さが感じられないときのもやもやした表情と、心が通じ合ったときの子どもたちの笑顔は今でも忘れられません。互いの文化を理解し合う経験ができたのだらうと思います。

異国での生活は、最初は買い物をするのも大変でした。電気屋さんの店員のスペイン語が全く分からず翻訳機を取り出したのですが、おそらく発音が似ている他の言葉に翻訳され（あなたを燃やします・・・と翻訳されていました）、思わず自分自身が吹き出してしまったこともありました。しかし、少しずつスペイン語を理解できるようになると、一生懸命話をしてくれる相手の言葉に集中し、あきらめずに聞き続けることにより、分かる単語も増えていきました。その単語を復唱しながら、相手が喜んでくれたときには「心のつながり」を感じることができました。何千回、何万回の「グラシアース！（ありがとう）」を言ったことでしょう。コスタリカ人の優しさに支えられた三年間だったと思います。

今は、世界の国とつながる時代です。横浜市はグローバル化がどんどん進んでいます。鶴見区は特にそうだと思います。将来、子どもたちが大人になり、もっともっと活躍する頃にはさらに進むことでしょう。末吉小の子どもたちにも、相手を理解しようとする事、相手を思いやる事の大切さを身につけて行ってほしいと思っています。そして、たとえ相手とうまく通じ合えないことがあっても、相手を信じ粘り強く、困難なことにチャレンジして行ってほしいです。私の経験や子どもたちの経験をみんなで共有しながら、今後も教育活動に取り組んでいきたいと思っています。



～コスタリカ豆知識～

- ・「コスタリカ」はスペイン語で「富める海岸」
→太平洋とカリブ海に面している
- ・エコツーリズムの国（動植物が豊富）
→ケツァール、トゥカーン、ウミガメ・・・
- ・国民的スポーツは、サッカー
- ・世界一幸福な国（2009年調査）

